

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人のために何ができるか?」という考えのもと、職員が理想を書き出し持ち寄り、集約した結果として「その人がその人らしさを発揮し心身共に安心して生活ができる場となる様支援します」という理念を作られました。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「その人らしさ」を具現化するため、その人が一番輝く役割であったり、その人が望む介助や話し方で一人ひとりを大切にケアが行われています。また、「安心した生活」を具現化するために、笑顔の絶えない良い雰囲気作りを全職員が意識的に行うことを共有しています。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の来訪時や、地域の長寿大学の見学時に理念を伝えるようされていますが、これまで内部充実に力を入れていたこともあり、地域に対しての情報発信が不十分などがあります。		併設施設も含め、地域に於いて介護、医療の中心的な存在であり、地域の方の期待も大きいように思われます。広報誌などを活用し、地域の方に理念をもとにした取り組みを広く理解してもらい、これまで以上の相互協力関係を構築されることを期待します。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	個人レベルでのボランティアや近隣の商店とは良好な関係を構築されていますが、町会や自治会への参加は現状されていません。		積極的に町会や自治会に参加し、事業所と地域の人々で支えあう双方向の関係を構築されることを期待します。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価と外部評価を通して、これまでの活動を見直し、改善を行う機会にしたいという意識で自主的に取り組まれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回開催されていますが、管理者自身は報告と意見のみに終始してしまっているといった感想を持っています。		今行われている運営推進会議の問題点を明確にし、解決策を検討されることを期待します。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議をきっかけとして、運営推進会議以外にも頻繁に相談をする関係が作られています。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加などを通し、職員全員が虐待に関する意識と知識を共有されています。また、身体的な拘束のみならず、言葉による虐待への配慮もされています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	生活記録を全職員が共有することで、来訪時にどの職員が対応しても、利用者の状態を報告できるようにされています。また、利用者の写真で家族が気に入ったものがあれば差し上げてなどの取組みがされています。しかし、ご家族の事情等で疎遠になってしまっている方がおります。		疎遠のご家族への対応を期待します。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は行われていませんが、家族参加のイベント、運営推進会議や相談・苦情対応窓口の設置などが行われています。		家族会という形ではなくても、家族同士が集まり、相談し合ったり、意見を取り交わす場の検討を期待します。
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見交換できる雰囲気作りに留意しながら、ユニット会議や全体会議を定期的が定期的開催されています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現場において利用者や新人職員が馴染めるような工夫をされていますが、今後起こりうる異動への対応は十分な検討がなされていません。		現在取り組み中のマニュアル整備を進める際、職員の異動による利用者の営業と対応策を検討し、明文化しておくことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	基本的なマニュアルは揃っております。また、より現状に即したマニュアルにするための見直しも現在進められています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上下関係なく、職員間で協力し合いケアに取り組んでいることで有効なOJTがなされていると思います。また、同法人の研修会、外部で行われる研修会への参加などが行われていますが、重度化への対応等、これまで経験していないことへの不安を持つ職員があり、具体的な介護の研修を望む声もあります。		全体会議などの場を利用し、どのような研修が必要であるのかを洗い出し、事業所としてどのような取り組みを行うかを検討することを期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会へ加入されています。また、近隣の同業者の交流会へ参加し、相談し合うことが、サービスの質の向上への取り組みとなっています。		
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	特別に面談の場を設ける等のことをしなくても、極めて自然に困っていることがあれば相談をし、皆で解決策を検討する雰囲気作りができています。また、夜勤の際、管理者が全職員とペアになるようシフトを組み、個々とのコミュニケーションの場を設けています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初めての来所の際に、既に入居している利用者と一緒にお茶を飲むことや、まずはレクリエーションに遊びに来て、顔なじみの関係を作るなど、利用者の輪に自然に入れる工夫が行われています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が自分のおじいちゃん・おばあちゃんのように接し、家族のような関係を構築する中から、利用者から職員のプライベートなことにするアドバイスを受けたり、知恵を学んだりするといった場面が作られています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に差し入れをいただいたり、敷地内にある畑の手入れのボランティアに来ていただいたりと、家族と職員が協力してケアに取り組まれています。しかし、ご家族の事情等で疎遠になってしまっている方がおります。		疎遠のご家族への対応を期待します。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	独自でケアチェック表を作り、全職員が意見を記入することで、希望や意向に日々細かく対応されています。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントは聞き取りではなく、時間を掛けて記入してもらうことで、少しでも多くの情報を収集するよう工夫されています。また、職員が日々のケアの中から得た情報は、申し送りや全体会議の場で共有されています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアチェック表の意見(全職員が記入)が異なることで様々な視点から一人ひとりに最適なケアプランを作成する工夫がされています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全職員の意見を集約して定期的な見直しが行われるとともに、ケアチェック表によりケアプランと実際のケアのギャップをすぐに見つけられるように工夫がされています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所として、一人ひとりに応じた柔軟なケアを行うとともに、複合福祉施設のメリットを最大限活用し、介護保険施設・ケアハウス・ヘルパー・病院との連携を密にすることで、利用者の状態に合わせた対応が可能となっております。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院を希望されるケースが多いが、本人やご家族の希望の病院での受診が行われています。情報の共有は、書面にてご家族を介して行われています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の際、どのようにしたいかというご家族の考えを確認されています。また、医師・栄養士等の連携体制ができています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	基本的なことは入職時に徹底されています。また、全体会議等の機会を利用し、チェックが行われています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日のスケジュールはあるが、無理強いせず、本人の気持ちを大切に、本人のペースで役割が行われたり、晩酌を楽しみにされたりしています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理、盛り付け、調理、片付けを一人ひとりの好みと能力に合わせ行い、職員と協力し合いながら食事の一連の流れが行われています。また、敷地内の畑で収穫した大根、白菜、キャベツ、ブロッコリーなどが食材として取り入れられています。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、オムツを使用する場合も夜だけの使用に限定するなどの工夫がされています。また、排泄の失敗に関しては、夜間居室で起こることが多いため、何事もなかったように片付けを行う配慮がされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1回の入浴に2時間かける方に対しても、せかすことなく本人のペースを大切に介助がされています。また、利用者同士で入浴したいという雰囲気が自然に作られているため、拒否される方も少なく、2回入りたいという方もいる状況です。また、同性の職員が介助に当たる等の配慮も忘れていません。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職歴などから、その人が一番輝く役割をお願いする配慮がされています。また、手芸や歌の他、介護保険施設の朝の体操に参加したり、ケアハウスでのカラオケに参加したりと複合施設のメリットを活かした楽しみごとが行われています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩、敷地内の畑、ホームのデッキなど、利用者の状態に合わせて外出する機会を作られています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの内容にあるような基本的なことは、当然のこととして全職員に周知徹底されています。また、精神的な身体拘束についても職員間でケース検討が行われています。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	構造上の問題と虫や動物の侵入への配慮から、正面玄関は開放できない状況ですが、一人ひとりの希望や行動特性を把握し、外出に対しては積極的に支援がされています。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはったり事故が発生した場合、職員全員が原因の検証と再発防止策を検討する機会が設けられています。また、複合施設の防災委員会に参加や、複合施設全てに利用者の顔写真入りの情報を配布し、行方不明防止に努められています。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員が普通救命講習を受講されていますが、ホーム内での訓練等の取り組みはまだされていません。		ホームや利用者の状況に応じた独自の訓練の実施を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 ( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練の実施や、複合施設と連携した備品・備蓄の整備がなされています。また、ホーム独自のマニュアル作りにも取り組まれています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の栄養バランス、水分量の管理と、栄養士による献立の栄養バランスへの配慮がされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔感と開放感がある建物に、程よく手作りの作品や写真などの装飾がされており、温かさを感じることができます。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や備品など、利用者や家族の希望に対応して、一人ひとり好みに部屋になるようされています。		